

高知県版 J-クレジット制度 排出削減プロジェクト・ 森林管理プロジェクト 妥当性確認報告書

プロジェクトの名称：

高知県四万十市役所市有林間伐推進プロジェクト（温室効果ガス削減）

妥当性確認 機関名	一般財団法人 日本品質保証機構
役職 / 代表者 名	専務理事 矢野 忠行



発行日 2015 年 3 月 16 日

1 妥当性確認機関の情報

※ 本項目は、高知県オフセット・クレジット認証運営委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたプロジェクト計画書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	一般財団法人 日本品質保証機構	
担当部署名	地球環境事業部	
責任者名	専務理事 矢野 忠行	
審査チームリーダー	野村 祐吾	
審査チームメンバー	松岡 良昭	
レビュアー	浅川 健一 (テクニカルレビュー) 浅川 健一 (プロセスレビュー)	
技術専門家 ※チームメンバーに含まれる場合のみ記入すること	なし	
本妥当性確認報告書 に対する問合せ先	担当者	野村 祐吾
	TEL	03-4560-5600
	Email	nomura-yuugo@jqa.jp
プロジェクトの関係者との利害 抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
判断の根拠	JQA が定める利害関係管理規定により確認。	

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、高知県オフセット・クレジット認証運営委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	高知県四万十市役所
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	明星建設有限会社
低炭素社会実行計画への参加実態 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
温対法特定排出者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 該当なし
省エネ法報告対象者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 該当なし

	<p>範囲 ※妥当性確認の範囲がプロジェクト計画書の範囲であることを記載すること</p>	<p>プロジェクト計画書に記載された本プロジェクトに係る範囲を妥当性確認対象範囲とした。</p>
	<p>保証水準 ※妥当性確認の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること</p>	<p>実施規程（審査機関向け）Ver.1.1に基づき、合理的保証水準とした。</p>
<p>妥当性確認手続 ※現地審査の実施有無について記載すること ※また、実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること</p>		<p>■現地審査を実施した（2015年2月24日に訪問） □サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） □現地審査を実施していない</p> <hr/> <p>プロジェクト実施場所である高知県四万十市役所市有林を訪問し、現地目視、根拠資料の確認、関係者へのインタビューを行った。モニタリングエリア及びモニタリングプロットについて現地確認、関係者へのヒアリングを実施した。</p>
<p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4における結果を総括し、排出削減量又は吸収量に影響を与える可能性のある、主な指摘事項について記載すること</p>		<p>妥当性確認を通じて発見された吸収量に影響を与える主な指摘事項は、下記についての事項であり、プロジェクト関係者による追加資料の提出・記載の修正等の対応により、当該事項について解決したことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A.1 追加性に関する情報」における経費等・収益の値について→採用単価の誤りの修正 ・「方法論の適用条件への適合」におけるプロジェクト対象森林について→欠落していた森林施業対象市有林を追加 ・「吸収量算定シート」におけるモニタリングエリアについて→欠落していた森林施業対象市有林の追加に伴うモニタリングエリアの追加 ・「モニタリング体制」における人員の選任について→データ管理責任者、モニタリング担当者の修正
<p>妥当性確認結果</p>	<p>確認結果</p>	<p>■適正 □不適正 □意見不表明</p>

	<p>意見・結論</p> <p>※4 における結果を総括し、確認結果における意見の理由を記載すること</p>	<p>一般財団法人 日本品質保証機構（JQA）は、「高知県四万十市役所市有林間伐推進プロジェクト」におけるプロジェクト計画書の妥当性を確認した。その結果、本プロジェクト計画書が、高知県版 J-クレジット制度実施要綱、高知県版 J-クレジット制度実施規程、J-クレジット制度モニタリング・算定規程、方法論（FO-001 Ver. 2.1）に基づいて作成されていることを確認し、誤りの評価結果が 0%となり、重要性の判断基準の 5%未満であることから、妥当性確認意見は適正意見であることを表明する。</p>
--	--	---

4 妥当性確認結果（詳細）

※プロジェクト計画書の記載内容が3に記載した妥当性確認の基準に適合しているか否かの確認とともに、プロジェクトの実態とも整合していることを確認した結果について記載すること。

※判断の根拠がプロジェクト計画書以外に入手した資料に基づく場合には、当該資料の名称を記載すること。また、口頭での確認や証拠として入手していない資料に基づいて確認した場合には、その内容についても記載すること。

4.1 プロジェクト概要の確認（プロジェクト計画書の「2 プロジェクト概要」に対応）	
プロジェクト実施場所は高知県内か	<input checked="" type="checkbox"/> 高知県内 <input type="checkbox"/> 高知県外
プロジェクト実施前の状況の記載内容と実際の状況は整合しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない
判断の根拠	<p>以下の資料、現地目視及び担当者へのヒアリングによりプロジェクト実施前の状況の記載内容と実際の状況が整合していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書
プロジェクト実施後の状況の記載内容と実際の状況は整合しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input type="checkbox"/> 妥当性確認時点では不明
判断の根拠	<p>以下の資料、現地目視及び担当者へのヒアリングによりプロジェクト実施後の状況の記載内容と実際の状況が整合していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書
プロジェクト実施日の記載内容と実際の状況は整合しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない
判断の根拠	<p>以下の資料、現地目視及び担当者へのヒアリングによりプロジェクト実施日の記載内容と実際の状況が整合していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書

4.2 保証水準を満たすためのリスク評価	
<p>リスクの程度</p>	<p>固有リスク：■高 □低 統制リスク：■高 □低</p>
<p>リスクの内容</p>	<p>固有リスク： ・実施要綱に規定するプロジェクトが満たすべき要件を満たさない可能性 ・方法論 FO-001 の適用条件を満足していない可能性 ・プロット設定地がモニタリング・算定規程に基づいていない可能性 ・モニタリング手法及び算定に関するパラメータについて、適切な手法及びパラメータが採用されていない可能性</p> <p>統制リスク： ・QA/QC が機能せず、データの取得及び取扱いにおいて誤りが生じる可能性</p>
<p>発見リスクに対する考え方 ※3. に記載した保証水準を満たすための、リスクを合理的に低く抑える方法について記載すること。</p>	<p>固有リスクの各事項については、リスクの程度が高いため、固有リスクとして識別した各事項について、それぞれ適切な根拠資料に基づく確認、現地目視及び担当者へのヒアリングを実施した。</p> <p>統制リスクについては、リスクの程度が高いため、モニタリング体制、品質管理体制（QAQC 体制）について根拠資料の確認及び担当者へのヒアリングを実施した。</p> <p>上記の対応策を実施するように妥当性確認の計画を策定した結果、発見リスクを合理的に低く抑えうると判断した。</p>
4.3 追加性の確認	
<p>（投資回収年数で追加性を判断している場合）投資額、ランニングコスト、エネルギー単価、補助金などの情報や計算結果は適切か</p>	<p>■適切である □適切ではない □該当なし</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより森林経営に要する経費、補助金などの情報や計算結果が適切であることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営に要する経費一覧表
<p>（投資回収年数以外で追加性を判断している場合）考え方の妥当性或証明方法は適切か</p>	<p>□適切である □適切ではない ■該当なし</p>

<p>判断の根拠</p>	
<p>4.4 方法論における適用条件への適合の確認（プロジェクト計画書の「3.2 方法論の適用条件への適合」又はプロジェクト計画書（プログラム型プロジェクト用）の「4.2 各削減活動の方法論の適用条件への適合」に対応）</p> <p>※欄が足りない場合は適宜追加すること。</p> <p>※プログラム型プロジェクトの場合は、削減活動が各適用条件に合致することを判断するために、運営・管理者が実施する手続の妥当性について確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベースラインとして標準的な設備を設定している場合、設備の特定や効率設定の考え方の妥当性を確認し、その根拠となる資料（カタログ等）について記載すること 	
<p>条件 1 （プロジェクトが、森林法第 5 条又は第 7 条の 2 に定める森林で実施されること。）</p>	<p>■適合 □不適合</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより条件 1 の要件を満足していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林経営計画書
<p>条件 2 （プロジェクトが、市町村長等の認定を受けている森林経営計画又は森林施業計画に沿って実施され、かつ、森林経営計画又は森林施業計画単位で実施されること。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトを実施しようとする森林経営計画又は森林施業計画の中から、プロジェクト実施者自らが所有又は管理する森林のみについてプロジェクト対象としていること ・ 対象となる森林経営計画又は森林施業計画においてプロジェクトに参加しない森林所有者が存在する場合、永続性確認方法について確認、合意した証拠が提出されること 	<p>■適合 □不適合</p>

<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより、プロジェクトを実施しようとする森林経営計画の中から、プロジェクト実施者自らが所有又は管理する森林のみについてプロジェクト対象としていることを確認した。</p> <p>また、対象となる森林経営計画においてプロジェクトに参加しない森林所有者が存在しており、永続性確認方法についての説明会が適切に実施されたことを確認した。</p> <p>以上より条件2の要件を満足していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書 ・プロジェクト実施地以外の土地に関する永続性確認方法についての説明会実施記録
<p>条件2 (プロジェクトが、市町村長等の認定を受けている森林経営計画又は森林施業計画に沿って実施され、かつ、森林経営計画又は森林施業計画単位で実施されること。) <u>プロジェクト実施者自らが所有又は管理する森林から一部を抽出してプロジェクト計画の登録を行う場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要件1：500ha以上であること。 ・要件2：恣意的に抽出したものでないと認められること。 ・要件3：森林経営計画又は森林施業計画においてプロジェクト実施者自ら所有又は管理する森林に主伐が計画されている場合は、プロジェクト実施地に主伐実施の林分を含むこと。 	<p><input type="checkbox"/>適合 <input type="checkbox"/>不適合</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>該当しません。</p>
<p>条件3 (条件2に基づき定めたプロジェクト実施地に主伐実施の林分を含む場合は、認証対象期間における吸収見込み量の累計が正であること)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適合 <input type="checkbox"/>不適合</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより、認証対象期間における吸収見込み量の累計が正となることを確認した。</p> <p>以上より条件3の要件を満足していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸収量算定シート

<p>条件 4 (認証対象期間内に森林経営計画又は森林施業計画に基づく間伐が、プロジェクト実施地において計画されているプロジェクトであること)</p>	<p>■適合 □不適合</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより条件 4 の要件を満足していることを確認した。 ・森林経営計画書</p>
<p>条件 5 (森林経営計画又は森林施業計画において、プロジェクト実施地の土地転用 (収用など避けがたい土地転用を除く。) が計画されていないこと)</p>	<p>■適合 □不適合</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより条件 5 の要件を満足していることを確認した。 ・森林経営計画書</p>

4.5 モニタリング・算定方法の確認（プロジェクト計画書の「3.3 モニタリング・算定方法」又はプロジェクト計画書（プログラム型プロジェクト用）の「6.2 モニタリング・算定方法」に対応）	
方法論で示された活動（主要排出活動、付随的な排出活動及び吸収活動）がベースライン、プロジェクト実施後ともに網羅されているか	<input checked="" type="checkbox"/> 網羅されている <input type="checkbox"/> 網羅されていない
活動量のモニタリング項目、方法、頻度は適切か	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない
モニタリングポイント又はモニタリングエリアが適切に設定されており、モニタリング項目、方法と一致しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない
判断の根拠	<p>下記資料、現地目視及び担当者へのヒアリングによりモニタリングポイント又はモニタリングエリアが適切に設定されており、モニタリング項目、方法と一致していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書 ・モニタリング・算定規程
【森林管理プロジェクトの場合のみ】	
算定対象とする面積が方法論に規定する要件を満たしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 満たしている <input type="checkbox"/> 満たしていない
判断の根拠	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより要件を満たしていることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書
面積の実測は、適切な実測者・測定機器・モニタリング精度によって実測されているか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない
判断の根拠	<p>下記資料、現地目視及び担当者へのヒアリングにより適切な実測者・測定機器・モニタリング精度によって実測されることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング手順書
幹材積成長量は、適切な収穫予想表・文献・資料に基づき適切にモニタリングされているか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 適切ではない

判断の根拠	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより適切な収穫予想表・文献・資料に基づき適切にモニタリングされることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実林分材積（蓄積）表（高知県森づくり推進課）
容積密度・拡大係数・地下部率は適切な報告書・文献・資料によってモニタリングされているか	<p>■適切である □適切ではない</p>
判断の根拠	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより適切な報告書・文献・資料に基づき適切にモニタリングされることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング・算定規程（森林管理プロジェクト用）
モニタリングプロットが適切に設定されており、地位特定のためのモニタリング項目、方法と一致しているか	<p>■適切である □適切ではない</p>
判断の根拠	<p>以下の資料、現地目視及び担当者へのヒアリングによりモニタリングプロットが適切に設定されており、地位特定のためのモニタリング項目、方法と一致していることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書 ・プロット位置図
地位は指定のステップをふまえ適切に実測されているか	<p>■適切である □適切ではない</p>
判断の根拠	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより、適切な暫定地位が特定されていることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書 ・プロット調査結果 <p>※新規プロジェクト対象地の地位の実測はモニタリング実施時に行うため、計画段階では暫定地位となる。</p>

4.6 排出削減量又は吸収量の試算の確認（プロジェクト計画書の「4 排出削減計画／吸収計画」又はプロジェクト計画書（プログラム型プロジェクト用）の「5 排出削減計画」に対応）

<p>ベースライン排出量又はベースライン吸収量の考え方は適切か ※方法論に記載されたベースライン排出量又はベースライン吸収量の考え方に従っているか</p>	<p>■適切である □適切ではない</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下資料及び担当者へのヒアリングによりベースライン吸収量の考え方が適切であることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法論 FO-001 (ver.2.0)
<p>ベースライン排出量、ベースライン吸収量、プロジェクト実施後排出量及びプロジェクト実施後吸収量の試算に用いている式、その算定結果及び各パラメータの値は適切か</p>	<p>■適切である □適切ではない</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングによりベースライン吸収量及びプロジェクト実施後吸収量の試算に用いている式、その算定結果及び各パラメータの値が適切であることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸収量算定シート ・森林経営計画書 ・現実林分材積（蓄積）表（高知県森づくり推進課） ・モニタリング・算定規程（森林管理プロジェクト用） ・方法論 FO-001 (ver.2.0)
<p>排出削減量又は吸収量の試算に用いている式、各パラメータの値及び算定結果は適切か</p>	<p>■適切である □適切ではない</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングにより吸収量の試算に用いている式、その算定結果及び各パラメータの値が適切であることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸収量算定シート ・森林経営計画書 ・現実林分材積（蓄積）表（高知県森づくり推進課） ・モニタリング・算定規程（森林管理プロジェクト用） ・方法論 FO-001 (ver.2.0)

4.7 データ管理の確認（プロジェクト計画書の「5 データ管理」又はプロジェクト計画書（プログラム型プロジェクト用）の「7 データ管理」に対応）

<p>モニタリング・報告の実施体制は適切か</p>	<p>■ 下記全てについて適切である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング体制 ・データの収集・記録・保管のプロセス ・データの収集・記録・保管の時期及び期間 ・QA/QC の体制、仕組み、手順 ・モニタリング担当者の教育・訓練 <p>□ 適切ではない</p>
<p>判断の根拠</p>	<p>以下の資料及び担当者へのヒアリングによりモニタリング・報告の実施体制は適切であることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング手順書

4.8 【森林管理プロジェクトの場合のみ】森林管理プロジェクトの要件確認	
森林による吸収量の永続性担保に関する要求事項を満たしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 満たしている <input type="checkbox"/> 満たしていない
判断の根拠	<p>下記資料及び担当者へのヒアリングにより森林による吸収量の永続性担保に関する要求事項を満たしていることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト実施地以外の土地に関する永続性確認方法についての説明会実施記録
4.9 特記事項（プロジェクト計画書の「6 特記事項」又はプロジェクト計画書（プログラム型プロジェクト用）「8 特記事項」に対応）	
排出量の削減又は吸収量の増大に影響を与える可能性のあるリスク要因の記載内容と実際の状況は整合しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない
判断の根拠	<p>現地目視及び担当者へのヒアリングにより吸収量の増大に影響を与える可能性のあるリスクがないことを確認した。</p>
ダブルカウント防止措置の妥当性 ※プロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input checked="" type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない （認証予定期間 2014年4月1日～2021年3月31日）
判断の根拠	<p>担当者へのヒアリングによりダブルカウント防止措置が妥当であり、プロジェクト計画書の記載内容と実態が整合していることを確認した。</p>
プロジェクトの実施は法的義務への対応ではないか	<input checked="" type="checkbox"/> 法的義務への対応ではない <input type="checkbox"/> 法的義務への対応である
判断の根拠	<p>担当者へのヒアリングにより法的義務への対応ではないことを確認した。</p>
妥当性確認を通じて、プロジェクト実施者、プロジェクトの内容及びプロジェクト計画書について特記すべき事項がある場合には記載すること	<p>プロジェクト実施者、プロジェクト内容及びプロジェクト計画書について特記すべき事項等、申し送り事項は特記しない。</p>

5 品質管理レビュー

<p>計画された手順が全て実施されているか</p>	<p>■実施されている □実施されていない</p>
<p>所見</p>	<p>プロセスレビュー（2015年3月12日実施） 妥当確認が定められた手順に従って実施されたことを確認した。</p>
<p>妥当性確認結果は適切か</p>	<p>■適切である □適切ではない</p>
<p>所見</p>	<p>テクニカルレビュー1回目（2015年2月23日実施） 審査計画書がリスクアプローチ評価表等を用いて適切に作成されていることを確認した。 テクニカルレビュー2回目（2015年3月10日実施） 妥当性確認報告書類についての指摘事項があったが、その修正を確認し、妥当性確認報告書類が適切に作成されていることを確認した。</p>

6 妥当性確認後に重大な事実が発見された場合の対応方針

<p>妥当性確認結果に重大な影響を与える可能性のある事実が発見された場合における対応方針</p>	<p>本報告書発行の日付以降に妥当性確認結果に対して重大な影響を与えかねない事実が発見された場合には、当該事実に対処し、事務局へ報告できる体制を整備し、対策を講ずることとしている。</p>
--	--

7 妥当性確認機関における記録・保存

<p>意見表明の根拠となる証拠等を全て記録・保存しているか</p> <p>※機密性の高い文書等で入手ができない証拠等がある場合など、全ての証拠等を記録・保存していない場合にはその理由を記載すること。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 全て記録・保存している</p> <p><input type="checkbox"/> 記録・保存していない</p> <p>(理由)</p>
---	--